



Title	ことしから本格的な活動を : 山形県公衆衛生協会
Author(s)	浜口, 剛一
Citation	大阪公衆衛生. 1963, 11, p. 16-16
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84680
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ことしから本格的な活動を

山形県公衆衛生協会

「大阪公衆衛生」がしばらくの間の沈滞を破って復刊されることを知った。私にとっては復刊ということが何かもう一つピンとこないのだが、何はともあれ、これからは以前にまして、全国の公衆衛生マンを力づける雑誌になってほしいと思う。

山形県公衆衛生協会の組織のはじまりは昭和31年に日本公衆衛生協会の示唆により、支部に衛生教育部会を置き、会員を募集した時からで、保健所職員を中心とした会員が加入し、規約・役員の決定をみ、事務局を県の公衆衛生課内においた。しかし協会としては実際的な具体的な活動はほとんどなく、日本公衆衛生協会との連絡機関的な存在にすぎなかったようである。たとえば本部からの連絡、依頼事項の伝達や刊行物等の配布、処理をするくらいのことであった。いわば有名無実な存在であったといっても過言ではなかったのである。

本年度になって、支部活動を期待する意味で、山形県公衆衛生大会の主権者に名を列ねることとした。（これまでは大会の主権者ではなく、協賛団体にすぎなかった。）

将来の展望としては

- ①市町村の保健婦を含めて会費徴集による会員制を確立する。
- ②県公衆衛生大会を支部の一大事業とする。
- ③市町村の共同保健計画推進に側面的な援助をする。たとえば市町村の公衆衛生大会等を積極的に育成する。
- ④部会活動を通じて、会員の研修に努力する。
- ⑤刊行物の発行等、その他ともかく絵にかいた「もち」の段階だが、今後の御支援御べんたつをお願いする次第。

浜口剛一 （山形県衛生部公衆衛生課長）